

# 中田かわら版 3 月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

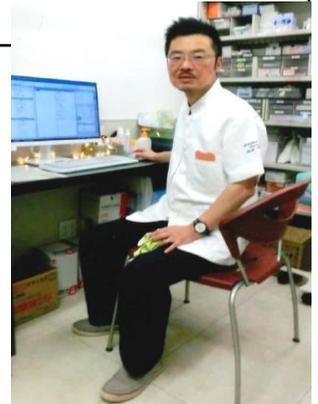
寄稿

＜中田の医院探訪＞横浜中田皮フ科に聞く

異業種 × 形成外科 = {モノづくり革命} × 「総合医・複眼的医療塾」

横浜中田皮フ科 院長 川崎 裕史 (58)

「地域にこんなクリニックが！」という驚きが地域に愛情を感じ、誇りを持つきっかけになればと思い、当院の「複眼的医療塾」というコンセプトや私の「モノづくり革命」の記録を紹介させていただきます。



タイトルにある「形成外科」という科は皆様には馴染みの無い科であり、病院でも何をしているか分かりづらい科だと思います。「これからの時代は知識だけでなく AI に負けない人間にしかできない熟練の技術が必要」と考えて最初に形成外科・外科に入り、様々なプロジェクトに関わってきました。臓器毎に分断された医療を行う病院の中では「褥瘡チーム」「がん術後の機能再建」「顔面神経麻痺からの表情再建」「肝移植」など、「他科医師」、「他業種」と形成外科技術や発想を種に他職種連携という化学反応を楽しく感じていました。

本来、ヒトの体は各臓器で関連があり、最初の表情として皮膚に表れて来ることが多いものです。その後皮膚科開業を前提に整形外科・自由診療クリニックに勤務しました。一つの科だけや保険診療だけでは「見えてこない景色」や国境の垣根を超えた「総合的解決法」をご提示し「できることを積み上げていく技術・トレーニング法を伝える塾」のような場所でありたいと思っています。それが「総合医・複眼的医療塾」のコンセプトです。

例えば足について言えば、足のむくみ・外反母趾・タコ（胼胝）・巻き爪・爪水虫等でも同時に起きていることが多いため、皮膚科・形成外科・整形外科・内科それぞれの知識が必要です。三つの診療科に通院するのも患者様にとっては時間や費用負担がかかりますし、各々の先生の説明が混同して理解してしまう事もあるでしょう。まとめて「足病」とすれば歩き方指導・手術になりそうな足の血流なのかの判断・リハビリ方法・創処置・軟膏によるマッサージの方法・海外の治療法までまとめてお伝え出来ます。

※クリニックでも「オリジナル化粧品・日用品」の開発や「コロナ発熱外来を含む災害医療（県庁業務等）の体制づくり」に「モノづくり革命」の精神は続いています。

命拾いするだけが医療では無いと感じる患者様の「もっとよくなりたい、輝きたい。今よりもいい暮らしをしたい。」という想いに答えをだす「人生を良くする医療」を提供できるクリニックでありたいと思っています。

～一人ひとりが CO2 を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

■ 「中田むかしの話」 <2>

# 「白百合の庚申塚は古道の交差点」

元泉区歴史の会会長 宮本 忠直著

地下鉄中田駅北東の高台にある白百合公園一帯の字名<あざめい>を「庚申塚」という。庚申塔や道祖神塔、堅牢地神塔<けんろうじじんとう>といった民間信仰の対象となった石神仏が多く祀られていた塚があったことから名付けられた字名だろう。

ここには昔、この地域を東西南北に通じていた幾筋かの道の交差点があった。その一つは谷矢部道<やとやべみち>と呼ばれた東西に通ずる道である。



天正18年(1590)小田原城落城により秀吉から中田で蟄居<ちつきよ>するよう命ぜられていた石巻康敬(のち中田の殿様)が、初めて江戸に入る徳川家康に会うため中田の蟄居宿から庚申塚、谷矢部を通り五大夫橋<ごだゆうばし>へ向かったという。

その二は岡津道、または小田原道と呼ばれた丘陵上を南北に通ずる道で、汲沢の中村方面から戸塚高校、踊場交差点を通過して中田・さちが丘線を跨ぎ、白百合の東端から戸塚斎場の西側を抜け、領家の住宅地を通過して晋光寺裏の新しい住宅造成地から岡津町の天台に下りる。更に進めば名瀬で鎌倉道の「中の道」に通じている。中世には古東海道の脇道として使われていたとも言われている



古い道である。江戸初期の岡津陣屋の全盛期時代には、処刑される場所のある陣屋に近付くと罪人が腰を抜かしてしまったことから「腰抜け坂」の伝承も生まれた。その他、庚申塚には、踊場の峠が開鑿<かいさく>される前の戸塚道(大山道)、柏尾道、また戦国期の分国支配のなごりを今に伝える郷境道<ごうざけえみち>も通っている。

庚申塔(左中央)の左側がT字交差点

## 編集後記

◆ 昨年秋から編集委員会に加わり「中田かわら版」に関わらせていただき、中田の街の情報発信の仕方を考えていたら、泉区のシティプロモーションに力を入れる区役所が12月、「泉区 SNS フォロワー等交流会」という会合を初めて開きました。ここでは「市民発!まちの魅力情報発信コミュニティ8」の充実などをテーマに議論が行われ、嶋宏之編集委員が「中田かわら版」の取り組みなどを報告しました。7日にも<区長と語ろう!市民が発信「#住むなら泉区」座談会>が開かれ、嶋委員と鈴木が参加し、泉区の魅力の情報発信が盛んにおこなわれる街づくりを目指すアクションプランなどで意見交換をしてきました。誰もが情報の発信者になる時代です。「かわら版」を核にした中田からの話題発信が、さらに注目されるよう工夫していきますので、ぜひ皆さんから、ご意見・情報をお寄せください。(鈴木賀津彦)

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本 正

編集委員；山木重樹、小島敏子、田中進、河内満明、松本純子、佐々木弘美、鈴木賀津彦、嶋 宏之